

振興を図る上で、スポーツ奨励制度と同様な制度を検討したい。また、褒賞については、著しい成績をおさめた方を褒めたたえることは文化振興の上でも大切なことと考えているため、教育委員会表彰や市政功労賞などで検討したい。

小・中学校に残る 焼却炉とダイオキシン

神近 寛 議員

Q 文部省（当時）は児童・生徒をダイオキシンの悪影響から守るため、各学校に残されている焼却炉の円滑な解体を求め、再三にわたり各自治体に通知している。しかし、本市においては、依然として焼却炉が残されたままの学校が多い。現状はどうなっており、なぜ解体が進まないのか。また、解体に向けた早急な対応を求める。

A 現在、13の小中学校に焼却炉が残っており、焼却炉の入り口をコンパネでふさぎ、雨水が入らないような対策をしている。1基あたり約550万円の解体費用がかかり、ほかの事業との優先度もあり全てを撤去できない状況であるが、最長でも5年以内に全ての焼却炉を撤去したいと考えている。

大村小「子宝見守り隊」 文科大臣より表彰

田中 守 議員

Q 大村小学校「子宝見守り隊」は、平成15年11月に創立130周年を記念して開催された地域友好祭の折、校区青少年健全育成協議会の方々を中心に結成された。その後、平成17年9月に文科省の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の一環で学校安全ポラントニアとして、大小健全協のメンバーを中心に「スクールガード」が結成された。受賞となった活動内容とその評価を尋ねる。

A スクールガードについては、健全協やPTA、地域の町内会の方々が地域における子どもたちの安全・安心な環境等を整備するための活動の一つだと理解している。学校地域における子どもたちの安全や安心を守る活動は、大変重要であると認識しており、充実させ、これからも進めていかなければならないと考えている。



都市整備

今後について

総合運動公園事業

伊川 京子 議員

Q 当初の計画では、全体面積約22haの完成が平成40年となっていた黒丸町の総合運動公園事業は、予算がとれずに大きく遅れている。国体では、一部を使ってソフボール競技が行われたが、今後さらに財政は厳しくなることから、完成がいつになるのか不明である。全体計画について、今後どうするのか真剣に議論する必要があるのではないかと。

A 総合運動公園の事業については、少なくとも第2期までは事業を進めたいと考えている。今後の整備計画については、社会情勢や経済状況の変化に応じて、市民や関係機関の意見を十分に聴きながら、慎重に検討する必要があると考えている。

バスも通らない 地域のことも考えて

伊川 京子 議員

Q 市長の所信表明に、高齢者へのバス料金の助成制度導入と

あるが、バスも通らない不便な地域の方々は利用できない制度である。最近、特に交通手段についての切実な要望が多く寄せられていることから、コミュニティバスや乗合タクシーなどの導入を少しでも早く、できることから始める必要がある。具体的に取り組む考えはないのか。

A 8月に決定した都市再構築戦略事業の中でも、市内の主要な駅や空港などの拠点と周辺部を路線バス等でつなぐことで交通空白地域の解消を図りたいと思っているが、具体化まで3年から4年かかると思う。そのため、平成28年度を目途にコミュニティバス等の実現を考えていきたい。

地域のインフラ整備を 着実に進めてほしい

村崎 浩史 議員

Q 上諏訪地区の久原池田線の変則六差路の交差点改良事業及び、乾馬場空港線の歩道整備の今年度の取組み状況と来年度以降の見通しはどうなっているのか。早ければ来年度から事業に着手することができると思うが、それぞれの状況はどうか。

A 久原池田線の当該交差点については、平成27年度通学路安